



花の予備校学園祭。今日は釣りクラブの教室へゆこう。

-釣りクラブの巻-

釣りクラブといっても、うちの予備校の生徒のこと、まだ若いので、とうてい先輩のみなさんの釣りの腕前にはかなわない。そこで彼等は、なにをやったかという、さすがは当校の生徒。釣りとはばねの関係を研究しなされた。われわれが常日頃お世話になっている鋼（はがね）は、刃物の刃と金（かね）に分解されるわけである。この手でゆくと、たいがいのは、分解されて、その語源をこじつけることができる。彼等の研究はこれだ。たとえば、鍛冶屋さんの鍛冶は金打（かねうち）のカとチを頂いたものである。また鍛冶屋さんが使うタガネは、断つ金であるし、木を切るナタは、クサナギの剣のナと断つタを結んだものである。さて、この方法で釣りとはばねはどのように結びつくのであろうか、釣りクラブの研究結果がお楽しみ。ちょっと、ここで断っておくが、食事をしながら、この新聞を読まれている方は、どちらか一方を中止してもらいたい。特に生徒からのご要望である。

-釣りとつり-

釣りとはいままでの魚釣りのことであるが、つりとなると大変意味が広がる。諸君はどんなことをご想像なされるかな。まず魚釣りのつり、相撲のつり、買物のつり銭のつり、つり鐘をつるすようなつり、いろいろあるものですね。一言、つりといってもこんなに意味があるので、日本語は難しいことになる。しかし一方では、生徒のいうような、こじつけには楽になるわけである。

-ばねとはね-

ばねの語源は、飛んでも跳ねても大丈夫の跳ね説、金（かね）がなまって濁った金説、どれもこれもごもつともな説である。もちろん、生徒達もどれが本当かは解らないとしてある。ところで跳ねるのはハネ、はねといえどどんなことがあるか、前と同じように考えてみよう。まず、おどりあがって嬉ぶのはね、ホーレンゲキョウで知られる筆のはね、芝居のはね、水や泥のはね。こちらの方も沢山あります。ここまでお話しすれば、頭のよい人はもう生徒の手の内は、下手な手品の種のようなものでお判りになったようですね。

-つりとばね-

前に竹のお話をしましたが釣竿は竹の弾性、すなわち、跳ね返る力を利用する点ではばねと似ています。生徒でなく学者の研究によれば、太平洋に面したある地方では、釣竿のことを『ハネ』というそうです。



次ページへ続く↓

株式会社アキュレイト 渡邊 信一

うえぶさいと www.accurate.jp 電子手紙 customer@accurate.jp

※ 本文は昭和41年から44年頃にかけて、新聞に掲載された記事の抜粋です。アキュレイトでは、掲載に携わった方々を探しています。また、工業規格や技術用語などはオリジナルのまま掲載しております。その為現在の規格と異なる表記がございます事をご了承ください。

※ 本文内容の転記・複写・改編を禁じます

一方、つり銭のつりは、つり合うつりとか、移動するのウツリからきたつりとする二説があります。しかし、エビでタイを釣るというように、与えて取るという点でつり銭のつりは釣竿のつりに一致するわけです。もう一つ、富山県では『つり銭をくれ』ということ『ハネくれ』というそうです。このハネは一体なんでしょう。はね返るのハネか金がなまったハネか、うちの生徒の頭では、ちょっと解決は無理なようです。しかし、以上のように考えると、つりとばねはなにやら密接な関係があることがわかりました。そういえば、ばねつり装置にはいろいろ苦勞しますな。

-困ったオツリ-

一万円札で葉書を一枚買うとおつりが大変ですね。こんな買い方はよしましょう。ところで、日本の水洗トイレの普及率はまだまだ後進国なみである。純日本式トイレで用を足すときには、いまだにかなりの高等技術を必要とする場合がある。つまり、今別れた筈のものが、あっという間に、故郷忘れ難く、ならびヶ丘まで舞いもどってくるのである。大判を出して小粒が返る。まさにオツリである。この有難くないオツリを避けるには、液相面を下げるかやわ肌を持ち上げるしかない。今はどうか知らないが、信州の野沢温泉のさる旅館のトイレの話。三階か四階の純日本式から一発放つと、はるか下の暗闇からブルンブルンと妙なる音が返ってくる。思わず腰を持ち上げるが、オツリの心配はない。また、かつての陸上選手はオツリよけのおかげで足のばねが強くなり、跳躍日本の名を欲しいままにしたものである。不思議なことに、清ケツ好きの日本の主婦達がこの問題をとりあげないのは、ひそかにうまく解決しているためだろうか。生徒の研究結果からとんでもない方に脱線してしまって失礼しました。落ちる所まで落ちた所で、花の予備校学園祭もこれで一応中止。やがてくる花の四月、花の新生を迎えて、ばねの勉強をまたしましょう。それまで、諸君は足のばねを強く鍛え、明日の飛躍のためにひと休みして下さい。

以上

株式会社アキュレイト 渡邊 信一

うえぶさいと www.accurate.jp 電子手紙 customer@accurate.jp

※ 本文は昭和41年から44年頃にかけて、新聞に掲載された記事の抜粋です。アキュレイトでは、掲載に携わった方々を探しています。また、工業規格や技術用語などはオリジナルのまま掲載しております。その為現在の規格と異なる表記がございます事をご了承ください。

※ 本文内容の転記・複写・改編を禁じます